

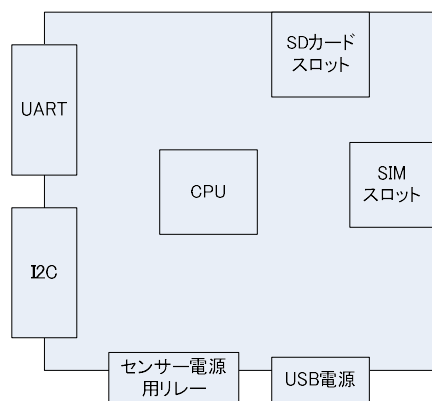
1. 概要

本装置は、I2C または UART で取得したデータを LTE-M 通信を使用してクラウドサーバーに伝送するアダプターです。

これにより、様々なセンサーや計測機器を無線化し、遠隔地でのデータ管理が可能です。

2. 特長

特長	説明
1. 定期送信	1分～24時間の間隔で定期的にデータ送信の間隔を設定可能
2. 閾値判定機能	設定された閾値に基づき、定期送信時刻に関わらず即時データ送信が可能。 ヒステリシス設定により、閾値判定（OVER/UNDER）の発生から終息までデータの送信が可能
3. I2C/シリアルデータ入力	I2CおよびUARTインターフェースを介して、各種センサーと接続可能
4. バッテリー駆動	SLEEPモードでは消費電流が約1mAで省電力。閾値判定機能と送信間隔の選定により、さらに効率的に稼働
5. LTE-M 通信	高速・低消費電力のLTE-M通信を使用し、安定したデータ伝送が可能
6. 遠隔設定	COS（CRONOX Open Service）と組み合わせて、送信間隔や閾値の遠隔設定および出力制御が可能



【IF 構成図】



【機器外観図】

3. 参考機器

アナログ入出力装置（CH101）、接点入出力装置（CH102）

主な事例

- 某自治体における地下水位データの送信

上位通信

- LTE-M
- センサー電源間欠電源機能 有

